

みずほCustomer Desk Report 2020/02/19号 (As of 2020/02/18)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.86
TKY 9:00AM	109.84	1.0837	119.03	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	109.94	1.0838	119.04	1.3005	0.6709
SYD-NY Low	109.66	1.0785	118.47	1.3049	0.6716
NY 5:00 PM	109.87	1.0791	118.61	1.2971	0.6674
NY DOW	29,232.19	▲ 165.89	日本2年債	-0.150	▲ 1.00bp
NASDAQ	9,732.74	1.57	日本10年債	-0.060	▲ 2.00bp
S&P	3,370.29	▲ 9.87	米国2年債	1.4126	▲ 1.63bp
日経平均	23,193.80	▲ 329.44	米国5年債	1.3955	▲ 2.13bp
TOPIX	1,665.71	▲ 22.06	米国10年債	1.5585	▲ 2.90bp
シカゴ日経先物	23,200.00	▲ 340.00	独10年債	-0.4075	▲ 0.50bp
ロンドンFT	7,382.01	▲ 51.24	英10年債	0.6090	▲ 3.10bp
DAX	13,681.19	▲ 102.70	豪10年債	1.0300	▲ 3.90bp
ハンセン指数	27,530.20	▲ 429.40	USDJPY 1M Vol	4.53	▲ 0.11%
上海総合	2,984.97	1.35	USDJPY 3M Vol	4.86	▲ 0.05%
NY金	1,604.50	18.10	USDJPY 6M Vol	5.29	0.03%
WTI	52.12	0.07	USDJPY 1M 25RR	-1.05	Yen Call Over
CRB指数	173.81	0.86	EURJPY 3M Vol	5.85	0.10%
ドルインデックス	99.46	0.46	EURJPY 6M Vol	6.11	0.11%

東京	東京時間のドル円は109.84レベルでオープン。新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、日経平均株価と共に下落。更に、オーストラリア準備銀行が公表した2月理事会の議事要旨で、追加利下げの妥当性について協議していたことが明らかになると、AUD円が下落すると対ドルでも円買いが勢いづき、一時109.66まで下落。その後はアジア株が下げ止まるとドル円も底堅く推移し、109.80レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、109.80レベルでオープン。新規材料に欠けるなか、横ばい推移。109.77レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2999レベルでオープン。アジア時間の流れを引き継ぎ、朝方はポンド売りが先行し、1.2971まで下値を伸ばした。その後、スウェーデン財務相の予算案を予定通り3月11日に発表するとの発言が流れ、安心感からポンド買いに転じ、1.3049まで上昇。1.3032レベルでNYに渡った。(ロンドン・フリー 00531 444 179 マクルヒル)
ニューヨーク	コロナウイルスの影響を受けて、米通信機器大手の1-3月期売上高が予想に届かないとの見通しを発表したことが嫌気され、アジア株も下落する中、海外市場のドル円も上値重く推移し、一時109.66まで下落。売り一巡後、109.70近辺でもみ合い、109.77レベルでNYオープン。朝方は米2月ニューヨーク連銀製造業景気指数が大幅に予想を上回ると、米金利が低下幅を縮小する動きとともに、ドル買いが強まり109.94まで上昇する。しかし、ダウ平均が上値重く推移する中、110円台回復には至らず、109.78まで反落する。午後は米株が下げ渋り、ドル円も小幅に値を戻すが、新規の手掛かり材料が乏しい中、方向感の無い推移が続く。結局、109.87レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、1.0830を挟んだ狭いレンジで推移スタート。欧州時間に独2月ZEW景況感指数が予想を下回るが、発表直後のユーロドルは反応薄だった。特段ヘッドラインが見当たらない中、早朝にかけてはユーロ売りが先行し、1.0813まで下落し、1.0815レベルでNYオープン。朝方は、米金利の低下幅縮小にドル買い優勢となり、1.0800を下抜け、1.0785まで安値を更新。その後、ユーロのショートカバーが入ったことや、米金利が再び低下したことから1.0826まで反発する。ユーロを買い戻す材料が乏しい中、午後は再び1.0800を割り込み、結局、1.0791レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 加藤・大庭 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
2月18日	18:30	英 ILO失業率(3ヶ月)	12月 3.8%	3.8%
	19:00	独 ZEW調査(現状/期待)	2月 -15.7/8.7	-10.0/21.5
	22:30	米 ニューヨーク連銀製造業景気指数	2月 12.9	5.0

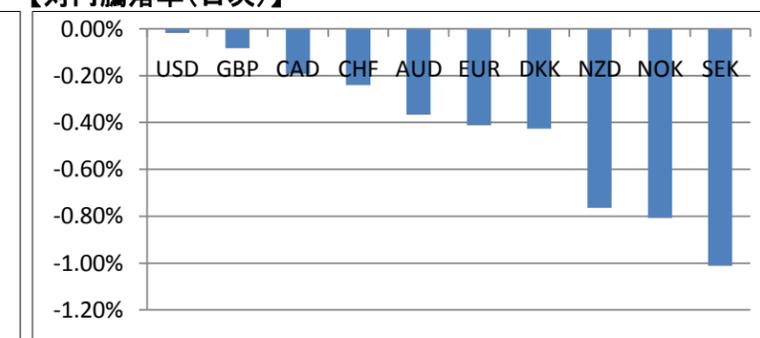
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
2月19日	18:30	英 CPI(前月比/前年比)	1月 -0.4%/1.6%	0.0%/1.3%
	22:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	1月 1425k/1450k	1608k/1420k
	22:30	米 PPI最終需要(前月比/前年比)	2月 0.1%/1.6%	0.2%/1.3%
2月20日	4:00	米 FOMC議事録	1月	

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 新型コロナウイルスより怖いかも

新型コロナウイルスの世界経済に対する影響がまだまだ未知数であるにもかかわらず株価が妙に安定しているように感じる。為替相場ではユーロが対米ドルで2017年以來の安値をトライし、資源国通貨は下落しており、明らかに新型コロナウイルスによる世界経済への悪影響を懸念している動きになっている。金の上昇、米債の利回りが月初来の低水準であることを考えると株価の妙な安定は奇異に感じる。これもまたトランプマジックであろうか。大統領選に向けてトランプ氏が景気を強調するであろうことは、誇張だらけであった一般教書演説でも明らかであろう。平均余命、就業率、所得格差等は他の先進国基準で言えばそれほどのことはない。確かに雇用、失業率、実質賃金はそれなりであろうが、構造的な財政赤字を生んだ財政刺激策の規模からすればその成果と誇れるレベルでは到底なからう。しかしながら、そうであっても米国民はトランプ政権で景気が改善してきたと感じているだろうし、それは大統領選にも一つの重要な判断材料となるであろう。そして、このままだとトランプ氏は再び大統領に選ばれる可能性は決して低くないと思われる。

米国民が彼を2度選ぶことになれば、彼の短期的な取引主義と力を行行使うため使えるものは何でも使うという姿勢は各国政府や企業経営者にとって世界をますます予測不能なものにすると思う。トランプ再選による世界の実体経済に対する悪影響は、ある意味新型コロナウイルス以上であるかもしれない。世界経済の不確実性とはすなわち米国がリードしてきた民主主義と自由貿易がリスクに晒されることであり、投資家のリスク許容度は低下し活気のある為替市場が戻ってくる時期はますます遠ざかるかもしれない。(加藤)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ブル	ペア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ペア	ブル	ペア	ブル	ブル	ブル

ブル	ペア
11	9